

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01208

研究課題名（和文）初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想：美術と修辞学の創造的共同

研究課題名（英文）Varietas and inventio in the visual arts of the early modern period

研究代表者

桑木野 幸司（Kuwakino, Koji）

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：30609441

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：初期近代西欧（15C-17C初頭）の視覚芸術において、修辞学に淵源する「多様性」の美学が一定の影響を持ちえたことを、文学、建築・庭園、絵画・彫刻を通底する観点から、明らかにすることができた。とりわけ、「多様性」の美学が、新たな観念の創出に寄与した事例を、具体的な一次資料の基づいて立証し得たことは大きな成果といえる。主だった分析対象は、Petro Andrea Mattioli、フランソワ・ラブレール、ペトルス・ラムス、レオン・バットィスタ・アルベルティ、アリオスト、サン＝ヴィクトルのフーゴー、モリス・セーヴ、キケロー、チェンバースなど。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本課題の学術的意義は、これまで、文学（文芸学）、思想史、美術史、建築史の各領域において、個別に研究されてきた「多様性」varietasの美学・概念が、初期近代の西欧における芸術創作全般において、無視しえぬ影響力を持っていたことを、具体的な資料や作例に基づいて実証してみせた点にある。社会的意義としては、とかく、専門分野に局踏しがちな初期近代文化史研究において、その成果を、一般向けの媒体や、市民向けのレクチャーなどを通じて、積極的に発信できた点である。現代社会の礎となったルネサンス期の西欧文化史の市曲面を広く一般に周知できた点は、評価に値すると自負するものである。

研究成果の概要（英文）：This study has shown that the aesthetics of diversity, which originated in rhetoric, had a certain influence on the visual arts of early modern Western Europe (15C-early 17C), from a perspective that extends to literature, architecture, gardens, painting and sculpture. In particular, it was a major achievement to be able to prove, on the basis of concrete primary sources, that the aesthetics of 'diversity' contributed to the creation of a new conception. The main subjects of analysis were Petro Andrea Mattioli, F. Rabelais, Petrus Ramus, Leon Battista Alberti, Ariosto, Hugo of Saint-Victor, Maurice Seve, Cicero and Chambers.

研究分野：ルネサンス空間史・思想史・視覚芸術史

キーワード：記憶術 多様性 エクフラシス 百科全書主義 マニエリスム ルネサンス建築史 庭園史 博物学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

初期近代(15C-17C 初頭)の西欧は、新旧の諸技芸や学術知が本格的な専門分化をはじめ直前にあたり、文芸・哲学・芸術・科学のあいだで活発な知や観念の交流があった。特に芸術創作の場面においては、一人の人物が詩作から美学理論の構築、各種視覚芸術の制作まで広く手掛ける事例が多く見られる。当然それら文とイメージが融合する多彩な領域に共通する美の観念が存在したはずだが、いまだ本格的な考究がない。本研究は、当該期の修辞学理論(文章構成法)と視覚芸術(イメージ制作)との間に想定される相互影響関係に着目し、文字と図像と空間とがいかに創造的に融合していたのかを、学際的なアプローチによって解明することを目的とする。具体的には、多様性(varietas)と発想(inventio)という、当時の文芸・美術界において注目を集めた二つの概念を軸に、イメージの生成を規定する審美的理論を剔抉し、その実践の諸相を分析することで、美術史研究の新たな地平の開拓を目指す。

「多様性は愉しませる *varietas delectat*」 三大悲劇詩人の一人エウリピデスが出典とされるこの文芸上の観念は、自然は「多様性を喜び *gaudet varietate*」かつ「多様性を通じて戯れる *ludit varietate*」等、当時の世界観にも反響しつつ、古代世界における一種の常套主題となり、後世の文化・思想にも大きな影響を与えた。もともと修辞学・詩学における文章の装飾、ないしは主題の展開という文脈で理論化されてきた *varietas* の観念であったが、早くよりホラティウス(『詩学』)や大プリニウス(『博物誌』)らによって視覚芸術における表現の審美効果と結びつけられ、古代以降のイメージ制作上のモデルの一つともなった。

そして文芸・美術における多様性礼賛が、初期近代の西欧ほどに大きな影響力をふるった時代も無かったといえる。とりわけ十六世紀は *varietas* の時代ともいえるほど、同観念は隆盛をみた。例えば十五世紀末フィレンツェの人文主義者 A. ポリツィアーノは、『*Miscellanea*』(1489)において古代作家のスタティウスを称揚しつつ、その多色モザイクのごとき主題と文体を典範とし、「博識なる多様性 *docta varietas*」の理想を掲げて当時の文芸・美術界に大きな影響を与えた。また D. エラスムスは、文章の豊饒化を説く『*De copia*』(1512)において、文藻の *varietas* が生み出す認識上の快を、絵画や視覚映像の比喻をさかんに用いて説明している。多様性美学の極致ともいえるグロテスク装飾紋様が流行したのもこの時代だ。

こうした修辞学と視覚芸術の間に想定しうる密接な関係を更に補強する観念として、「発想 *inventio*」をあげることができる。元々修辞学における「主題の発見」を意味していたが、視覚芸術においては一般に、作品の図匠を、予め文章やダイアグラム等で表したものを意味する。しかしながら造形芸術が古来、修辞学と密接な関係にあった可能性を考慮するならば、芸術における *inventio* には、単なる仕様書以上の一層複雑な創作プロセスを想定することができるはずだ。この観点から非常に興味深い事例を提供してくれるのが、*varietas* と *inventio* に等しく注目が集まり、かつ両概念の独創的な融合が図られる、初期近代という時代である。しかしながら、修辞学と芸術学の双方を等しく視野に入れ、テキストとイメージと空間に共通する美学ないしは創作規範を解明しようとする研究は、いまだ本格的に着手されていない。こうした現状認識に立った上で本研究の核心をなす「問い」は、とりわけ古代文化の復興が唱道され、かつ中世までの手仕事を脱して芸術が一挙に知性化した初期近代において、文章を構成するための修辞理論と、視覚的イメージないしは空間を創出する芸術上の諸規範とが、どこまで深く結びつき、かつ互いに影響を与え合って発展していたのか、という点である。この問いを解明することによって、諸技芸・学知が相互に貫入していた当時の芸術・学問観を広い知的コンテクストにおいて理解し、この時代特有の審美上の規範や創作プロセスを、これまでになかった深度と精度で検証することが可能になるはずである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の「問い」に答えるため、修辞学における効果的な文章作成の諸理論と、視覚芸術における創作プロセスとを、具体例を通じて比較し、両者の影響関係を明らかにすることである。具体的には 修辞学における *varietas* と *inventio* の整理、 エクフラシスや記憶術などテキストとイメージの通底に基づく諸分野の考察、 美術理論および具体的な視覚芸術作品の分析、という三つの柱を有機的に連携させることで、上記目的を遂行する。

*varietas* および *inventio* については、まず古代ギリシア・ローマの修辞学(弁論術)における両概念の定義とその変遷を整理したうえで、初期近代における古代文芸復興の中で、それらの意味がどのように継承され、あるいは変容されたのかを追跡する。その際注意すべきは、古代修辞学においては必ずしも厳密な関連性を有していなかったとされる *varietas* と *inventio* が、十五 十六世紀に独創的な仕方で融合するプロセスを剔抉することである。

テキストとイメージの通底の度合いをさぐる本研究課題を実施する上で重要となるのが、エクフラシスおよび記憶術である。前者は読者の眼前にありありと情景を想起させるような鮮烈かつ詳細な文章表現・技巧のことで、多様性と強い関連性を有し、また詩画一致理論(*ut pictura*

poesis) の実践の場を提供していた。後者は古代修辞学において理論化された人工的記憶強化法で、精神内に仮想の空間を設置し、そこに覚えたい文章の内容を多彩なイメージに託して配置してゆくため、エクフラシスと多様性に強く結びついていた。さらには単なる暗記便法としての機能のみならず、巧みに構築された仮想建築を通じて、新しいアイデアを着想する、いわゆる「発想 inventio」促進の側面も有しており、初期近代の文芸や芸術に大きな影響を与えていたことが近年明らかにされつつある。

美術理論および具体作品の分析については、初期近代に叢生した美術理論書、とりわけ *varietas* について独創的な理論を展開したアルベルティとヴァザーリの著作を中心に、多様性と発想の関連について、理論を整理する。また具体的な美術作品については、アルチンボルドやトリーポロといった多様性の表現に秀でた芸術家に焦点を当て、また建築や都市計画の事例にも視野を広げる。さらには作品の図案としての *inventio* 資料にも着目し、従来とは異なる視点から分析を試みる。すなわち文章によって絵画や建築の意匠・構成を規定するこのマテリアルを、本研究課題が設定する「問い」、すなわちテキストとイメージの融合、さらには両媒体の共同を通じた芸術的「発想」のプロセスを解明する有効な素材と位置づけ、得た知見を活用して詳しく解析してゆく。

### 3. 研究の方法

上述した *varietas* と *inventio* に関する諸課題を分析するために 1. 修辞学・文芸理論、2. エクフラシス・記憶術・百科全書思想、3. 視覚芸術の三つの大テーマと、九つのサブテーマを設定し四年間で研究を遂行する。

○テーマ 1：修辞学・文芸理論における *varietas* と *inventio*

サブテーマ a：古代修辞学

サブテーマ b：初期近代修辞学

サブテーマ c：初期近代（ルネサンス）文学

○テーマ 2：エクフラシス・記憶術・ルネサンス百科全書主義における *varietas* と *inventio*

サブテーマ a：エクフラシス

サブテーマ b：記憶術

サブテーマ c：ルネサンス百科全書思想と哲学思想

○テーマ 3：視覚芸術における *varietas* と *inventio*

サブテーマ a：芸術理論

サブテーマ b：絵画・彫刻（水野・岡北・古川） / c：建築・都市

作業の方法と年次プロセス

研究はテーマ 1-3 とともに初年度から並行して実施し、毎年二回程度の研究集会を開催して進捗状況と成果を確認する。二年・四年次（2021 / 2023 年度）には、それぞれ中間報告および総括の国際シンポジウムを開催して成果を広く国内外に問い、更なるテーマの深化と国際的な学術交流網の確立を図る。

### 4. 研究成果

上記の研究計画のもと 4 年間で複数の著作と論文を執筆し、口頭発表を行った。研究代表者の主だった業績は以下：

#### < 論文・著作 >

・桑木野幸司「記憶・知識・位置情報：桑木野幸司・ルネサンス期の「記憶術」が教えること」、『Work sight 20：記憶と認知症』、コクヨ株式会社 / 株式会社学芸出版社、2023 年 8 月、pp. 97-108.

・"DALLA «CAMERINA» DEL CONVENTO ALLA REGGIA MENTALE: L'OFFICINA SAPIENTIAE di Agostino Del Riccio", *Nel Giardino delle arti e delle scienze. Studi in onore di Lucia Tongiorgi Tomasi*, a cura di Alessandro Tosi e Massimiliano Rossi, 2023, pp. 153-160.

・桑木野幸司「テキストの中の『中つ国』：言の葉が織り紡ぐ再生の庭」、『ユリイカ 総特集 J. R. R. トールキン』、2023 年 10 月 5 日、pp. 249-261.

・桑木野幸司『ルネサンス 情報革命の時代』ちくま新書、2022 年 5 月

・桑木野幸司「ルネサンス庭園と古典主義」、『建築と古典主義』、2022 年度日本建築学会大会（北海道）建築歴史・意匠部門（9 月 5 日開催） pp. 79-82.

・桑木野幸司「宇宙誌としての建築 風の理想都市から星辰の花壇まで」、『ユリイカ』、2023 年 10 月 5 日、pp. 109-120.

カ』、2023年1月、pp. 175-184.

・桑木野幸司「「自然という書物」の美麗なる挿絵：15-17世紀の博物図譜の発展とヨーロッパの視覚文化」、『自然という書物：15-19世紀のナチュラル・ヒストリー&アート』、町田市立国際版画美術館、2023年3月18日、pp. 6-15.

・桑木野幸司「庭園と果物」、『セミナーと研究報告「庭園／植物／公園」』、山梨大学、平野研究室、2023年3月、pp. 1-13

・桑木野幸司「記憶術と忘却術 強すぎる精神イメージとの果て無き戦い」、『安形麻理(編)『文献学の世界：書物と社会の記憶』、慶應義塾大学文学部、3月31日、pp. 81-89.

・Koji Kuwakino, “Tra *inventio* e *imitatio*: il giardino ideale di Agostino Del Riccio come materializzazione della *machina memorialis*”, in *Reimmaginare la Grande Galleria. Forme del sapere tra età moderna e culture digitali. Atti del convegno internazionale, Torino, 1-9 dicembre 2020*, a cura di Erika Guadagnin, Franca Varallo, Maurizio Vivarelli, Torino, Accademia University Press il 24 marzo 2022, pp. 17-34.

・桑木野幸司訳「アゴスティーノ・デル・リッチョ『王の庭園について』」、『池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス芸術論』(上巻) 名古屋大学出版会、2021年6月、pp. 169-240.

・桑木野幸司「メディチ家の叡智の地図：初期近代イタリアの世界地図ギャラリーと地誌表象としての庭園」、『ユリイカ 特集：地図の世界』、2020年6月、pp. 164-172.

・桑木野幸司「イタリアが造った英国の風景」、『中島俊郎『英国流 旅の作法：グランド・ツアーから庭園文化まで』、講談社学術文庫、2020年、pp. 280-293.

<口頭発表>

Koji KUWAKINO, Ecfraresi per illustrare il libro della natura: la sinergia di parole e immagini ne *I Discorsi...* di Pietro Andrea Mattioli, L'ekphrasis architecturale dans la littérature du XVIIe siècle en France, 17-18 NOVEMBRE 2023, Institut d'Art et d'Archéologie, salle Doucet / Sorbonne, salle G073, École Normale Supérieure, salle Celan (10:00-10:45: 17th November 2023)

・桑木野幸司、「西欧庭園と美術：文芸、絵画、空間芸術のはざままで」、『鹿島美術財団・東京美術講演会「庭園の美術」』、鹿島建設KIビル2023年10月12日

・桑木野幸司、「『脱線』の魅惑／知の視覚化」、『国際シンポジウム「『脱線』 digression の創造力：初期近代西欧の視覚芸術と修辞学の協奏』、日本女子大学目白キャンパス・新泉山館大会議室、2024年2月23日

・桑木野幸司「記憶術と忘却術：強すぎる精神イメージとの果て無き戦い」、『慶應義塾大学・大学文学部「文献学の世界：書物と社会の記憶」(極東証券寄付講座 春学期・水2限)』、6月15日

・桑木野幸司「庭園と果物」、『セミナーと研究報告「庭園・植物・公園」(山梨大学教育学部芸術身体教育コース平野研究室主催)』、へちま STUDIO(山梨県甲府市中央 2-13-20)・ZOOM 同時配信、2022年3月19日14時~17時

・桑木野幸司「多様性 (varietas) 礼賛：初期近代西欧の視覚芸術と修辞学」、『シンポジウム「初期近代の芸術・文芸における varietas と inventio」』、2021年9月4日(土) 10:30-、ZOOM 開催

・Koji KUWAKINO, “Tra inventio e imitatio: il giardino ideale di Agostino Del Riccio come materializzazione della *machina memorialis*”, *Reimmaginare la Grande Galleria. Forme del sapere tra età moderna e culture digitali*, Convegno internazionale in videoconferenza, Torino, 1 dicembre 2020.

・桑木野幸司「イタリア・ルネサンス庭園：知を創造する空間」, 第41回学士会関西茶話会、2020年10月10日、14時半～16時半、京都大学学友会館

・桑木野幸司「アゴスティーノ・デル・リッチョの理想庭園論における建築エクフラシスと inventio：創造と模倣のはざままで」, オンラインシンポジウム「テキストを建てる、イメージを歩く」主催：2018-20年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究課題「啓蒙主義時代から19世紀前半までのフランスにおける建築図面・図表の思想的意義」（研究代表者：小澤京子）2020年9月12日、14:00～. ZOOM 使用

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 ルネサンス庭園と古典主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 建築と古典主義	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 宇宙誌としての建築 風の理想都市から星辰の花壇まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 庭園と果物	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 セミナーと研究報告「庭園 / 植物 / 公園」	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 「自然という書物」の美麗なる挿絵：15-17世紀の博物図譜の発展とヨーロッパの視覚文化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 自然という書物：15-19世紀のナチュラル・ヒストリー&アート	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 4
2. 論文標題 ジャン・パオロ・ロマッツォ『絵画殿堂のアイデア』(ミラノ、一五九〇年):抄訳・註釈	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部附置人文科学研究所論叢	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡北一孝	4. 巻 4
2. 論文標題 初期近代のサン・ピエトロ聖堂造営事業からみた建築の生と死：建築の永続性をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 カルチュラル・グリーン	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡北一孝	4. 巻 1
2. 論文標題 初期近代ヨーロッパにおけるマイクロ・アーキテクチャーの展開と建築模型の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2022年度日本建築学会大会 建築と模型[若手奨励]特別研究委員会PD資料	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺浩司	4. 巻 63
2. 論文標題 キケロー『弁論家』(2) 訳注	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林千宏	4. 巻 19
2. 論文標題 「画像」の変遷：『カンツォニエーレ』から『愛のエムブレム』へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 表象と文化	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/88389	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koji Kuwakino	4. 巻 1
2. 論文標題 Tra inventio e imitatio: il giardino ideale di Agostino Del Riccio come materializzazione della machina memorialis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Reimmaginare la Grande Galleria. Forme del sapere tra eta' moderna e culture digitali	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 上
2. 論文標題 アグスティーノ・デル・リッチョ『王の庭園について』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 原典イタリア・ルネサンス芸術論（上巻）	6. 最初と最後の頁 169-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 イタリア・ルネサンス庭園：知を創造する空間	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NU7 国立七大学の総合情報誌	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 博物館：世界のマイクロコスモスから近代科学の基幹施設へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学史事典	6. 最初と最後の頁 208-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 1
2. 論文標題 天の原型を計測する 有形・無形宗教遺産としての聖地エルサレムとその複製	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教遺産テキスト学の創成	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺浩司	4. 巻 62
2. 論文標題 キケロー『弁論家』（1）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 97-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 林千宏	4. 巻 XVIII
2. 論文標題 「グロテスク」の詩集 - セーヴ『デリー』（1544）における縁飾りについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表象と文化	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 6
2. 論文標題 メディチ家の叡智の地図：初期近代イタリアの世界地図ギャラリーと地誌表象としての庭園	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 164-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 イタリアが造った英国の風景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英国流 旅の作法：グランド・ツアーから庭園文化まで	6. 最初と最後の頁 280-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 10
2. 論文標題 「多様性は愉しませる」：初期近代の芸術・文芸におけるvarietas礼賛	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Arts&Media	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 92
2. 論文標題 イタリアルネサンス庭園：知を創造する緑陰を訪ねて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 記憶術と忘却術：強すぎる精神イメージとの果て無き戦い
3. 学会等名 慶應義塾大学・大学文学部「文献学の世界：書物と社会の記憶」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 魅惑のイタリア・ルネサンス庭園 - 水の庭園ヴィッラ・ランテを中心に -
3. 学会等名 イタリア研究会主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 西洋建築史研究室・教育鼎談シリーズ 第五回
3. 学会等名 東京大学大学院建築学専攻・加藤耕一研究室
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡北一孝
2. 発表標題 建築は永遠であるべきなのか？イタリア・ルネサンスにおける廃墟と再生
3. 学会等名 第5回 カルチュラル・グリーン研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chihiro HAYASHI
2. 発表標題 Le temps dans La Bergerie (1565) de Remy Belleau (Atelier franco-japonais organise' par Aya Iwashita et Anne-Pascale Pouey-Mounou
3. 学会等名 レミ・ペロー 『牧歌(1565)における時間』岩下綾・アンヌ＝バスカル・プエ＝ムヌ主催日仏交流研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林千宏
2. 発表標題 フランス・ルネサンス期における「作品集」の編纂 レミ・ペローの『牧歌』1565年版および1572年版を通して
3. 学会等名 大阪大学言語文化学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 庭園と果物
3. 学会等名 セミナーと研究報告「庭園・植物・公園」(山梨大学教育学部芸術身体教育コース平野研究室主催)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 多様性(varietas)礼賛:初期近代西欧の視覚芸術と修辞学
3. 学会等名 初期近代の芸術・文芸におけるvarietasとinventio
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 Theoriaへの道 (ductus) とvarietas サン = ヴィクトルのフーゴーからオピキヌスへ
3. 学会等名 初期近代の芸術・文芸におけるvarietasとinventio (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 天の原型を計測する：悔悛と救済への道程 (ductus)
3. 学会等名 新宮市・東京大学大学院人文社会系研究科連携協定締結記念東大人文・熊野フォーラム (第二回) 『災いと救い：聖地の生成と変容』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡辺浩司
2. 発表標題 キケローにおけるvarietas
3. 学会等名 初期近代の文芸・芸術におけるvarietasとinventio (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林千宏
2. 発表標題 モーリス・セーヴ『デリー』(1544)とグロテスク
3. 学会等名 初期近代の文芸・芸術におけるvarietasとinventio (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 アゴスティーノ・デル・リッチョの理想庭園論における建築エクフラシスとinventio: 創造と模倣のはざままで
3. 学会等名 テキストを建てる、イメージを歩く」主催：2018-20年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究課題「啓蒙主義時代から19世紀前半までのフランスにおける建築図面・図表の思想史的意義」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 イタリア・ルネサンス庭園：知を創造する空間
3. 学会等名 第41回学士会関西茶話会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Koji Kuwakino
2. 発表標題 Tra inventio e imitatio: il giardino ideale di Agostino Del Riccio come materializzazione della machina memorialis
3. 学会等名 Reimmaginare la Grande Galleria. Forme del sapere tra eta' moderna e culture digitali, Convegno internazionale in videoconferenza, Torino, 1 dicembre 2020
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 桑木野幸司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ちくま書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 ルネサンス 情報革命の時代	

1. 著者名 水野千依	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 680
3. 書名 聖性の物質性：人類学と美術史の交わる場所	

1. 著者名 水野千依	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 790
3. 書名 キリスト教文化事典	

1. 著者名 木俣元一・佐々木重洋・水野千依（編集）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 661
3. 書名 聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡北 一孝  (Okakita Ikko)  (00781080)	岡山県立大学・デザイン学部・准教授    (25301)	
研究分担者	水野 千依  (Mizuno Chiyori)  (40330055)	青山学院大学・文学部・教授    (32601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 浩司  (Watanabe Koji)  (50263182)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻）・教授    (14401)	
研究分担者	林 千宏  (Hayashi Chihiro)  (80549551)	大阪大学・大学院人文学研究科（言語文化学専攻）・准教授    (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関